

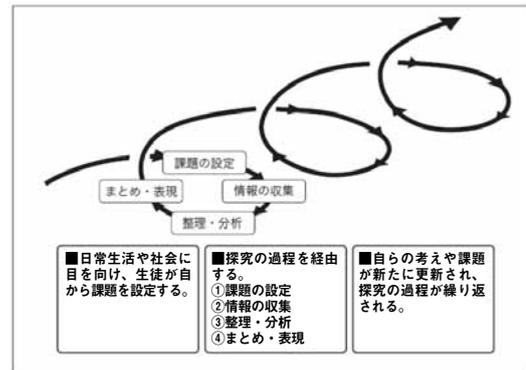
第2章 今、求められる力を高めるための学習指導

第2章

第1節 学習指導の基本的な考え方

総合的な学習の時間の改訂の趣旨を実現するためには、問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究的な学習とすること、他者と協同して課題を解決する協同的な学習とすることが重要である。加えて体験活動を重視するとともに、思考力・判断力・表現力等をはぐむ言語活動の充実を図ることが欠かせない。さらには、各教科等との関連を意識した学習活動を展開することなどを踏まえ、学習指導を行うことが大切である。

図 探究的な学習における生徒の学習の姿



1. 探究的な学習

探究的な学習とは、図のような問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動である。

- ①【課題の設定】 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- ②【情報の収集】 必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③【整理・分析】 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- ④【まとめ・表現】 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

こうした探究の過程は、およその流れのイメージであり、いつも順序よく繰り返されるわけではなく、学習活動のねらいや特性などにより順序が前後する場合がある。

2. 協同的な学習

総合的な学習の時間においては、特に、他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視する。それは、多様な考え方をもつ他者と適切にかかわり合ったり、社会に参画したり貢献したりする資質や能力及び態度の育成につながるからである。具体的には、次のような場面と生徒の姿が想定できる。

- ①【多様な情報を活用して協同的に学ぶ】
- ②【異なる視点から考え協同的に学ぶ】
- ③【力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ】

3. 体験活動の重視

総合的な学習の時間では、体験活動を適切に位置付けた横断的・総合的な学習や探究的な学習を行う必要がある。例えば、自然にかかわる体験活動、ボランティア活動など社会とかかわる体験活動、ものづくりや生産、文化や芸術にかかわる体験活動などを行うことが考えられる。

4. 言語活動の充実

思考力・判断力・表現力等の育成を図る上で、体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることを、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けることが大切である。

言語活動を実施するに当たっては、例えば、国語科の言語活動例をはじめ、各教科等で行われている言語活動との関連を図ることが大切である。

① 体験から感じ取ったことを表現する

(例) ・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する

② 事実を正確に理解し伝達する

(例) ・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する

③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例) ・需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす
・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する

④ 情報を分析・評価し、論述する

(例) ・学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する
・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する
・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする
・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する

⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(例) ・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする
・芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する

⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(例) ・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う
・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる



出典：中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について 5. (4) 思考力・判断力・表現力等の育成」(H20. 1.17)

5. 各教科等との関連

各教科等で身に付けた知識や技能を総合的な学習の時間において活用することによって、身に付けた知識や技能は確かになり一層生きて働くようになる。一方、総合的な学習の時間での学習活動やその成果が、各教科等の学習活動への意欲を高めたり学習を促進したりする。総合的な学習の時間と各教科等との関連を意識した学習活動を工夫することが大切である。

第2節 探究的な学習における学習指導

ここでは、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の育成に資する探究的な過程を、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」に整理し、各過程における学習活動の事例を以下のように紹介する。

学習過程	学習活動	ページ
課題の設定 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ	事例① 体験活動を対比して課題を設定する	20
	事例② 資料を比較して課題を設定する	21
	事例③ グラフの推移を予測して課題を設定する	21
	事例④ 対象へのあこがれから課題を設定する	22
	事例⑤ KJ 法的な手法で課題を設定する	22
	事例⑥ 問題を序列化して課題を設定する	23
	事例⑦ ウェビングでイメージを広げて課題を設定する	23
情報の収集 必要な情報を取り出し たり収集したりする	事例① アンケート調査で情報を収集する	24
	事例② フリップボードで情報を収集する	25
	事例③ インタビュー前にチェックリストで確認して情報を収集する	25
	事例④ 図書室や図書館で情報を収集する	26
	事例⑤ インターネットで情報を収集する	26
	事例⑥ ファクシミリで情報を収集する	27
	事例⑦ 手紙で情報を収集する	27
	事例⑧ 電話で情報を収集する	28
	事例⑨ 電子メールで情報を収集する	28
	事例⑩ 実験・観察を通して必要な情報を収集する	29
	事例⑪ ファイルに情報を集積する	29
	事例⑫ 集めた情報をコンピュータフォルダに蓄積する	30
整理・分析 収集した情報を整理し たり分析したりして思 考する	事例① スクラップシートで整理・分析する	31
	事例② 図等で整理・分析する	32
	事例③ グラフで整理・分析する	32
	事例④ マップで整理・分析する	33
	事例⑤ 座標軸の入ったワークシートで整理・分析する	34
	事例⑥ ベン図で整理・分析する	35
	事例⑦ メリット・デメリットの視点で整理・分析する	35
	事例⑧ 「ビフォー・アフター」の視点で整理・分析する	36
	事例⑨ SWOT 分析で整理・分析する	37
	事例⑩ ホワイトボードで整理・分析する	38
	事例⑪ プレインライティングで整理・分析する	38
まとめ・表現 気付きや発見、自分の 考えなどをまとめ、判 断し、表現する	事例① 振り返りカードでまとめ・表現する	39
	事例② 保護者や地域住民などに報告する	40
	事例③ 自己評価カードを活用してまとめ・表現する	40
	事例④ プレゼンテーションでまとめ・表現する	41
	事例⑤ 新聞でまとめ・表現する	41
	事例⑥ レポートでまとめ・表現する	42
	事例⑦ パンフレットでまとめ・表現する	42
	事例⑧ ポスターでまとめ・表現する	43
	事例⑨ パネルディスカッションでまとめ・表現する	44
	事例⑩ シンポジウムでまとめ・表現する	44

コラム 言語活動の充実をめざすために…

1. 課題の設定

総合的な学習の時間では、生徒が自ら課題意識をもち、その意識を連続発展させることが欠かせない。しかし、生徒が自ら課題をもつためには、教師はただ待つのではなく、意図的な働きかけを行い、学習対象とのかかわり方や出会わせ方などを工夫することが大切である。

課題の設定においては、次の点に配慮することが大切である。

- 人、社会、自然に直接かかわる体験活動を重視すること
- 生徒の発達や興味・関心を適切に把握すること
- これまでの生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」、理想と現実の対比などを大切にすること
- 各教科等で身に付けた知識・技能を積極的に活用すること

<具体的事例>

事例① 体験活動を対比して課題を設定する

「上流と下流の探検」「A町とB町を歩く」など、比べて考えるような体験活動を位置付けることで、「どこがどう違うのか」「どうして違うのか」などの問題に気づき、課題へと高めていくことが期待できます。

【実践例】 ○○川の水質調査活動



【ポイント】

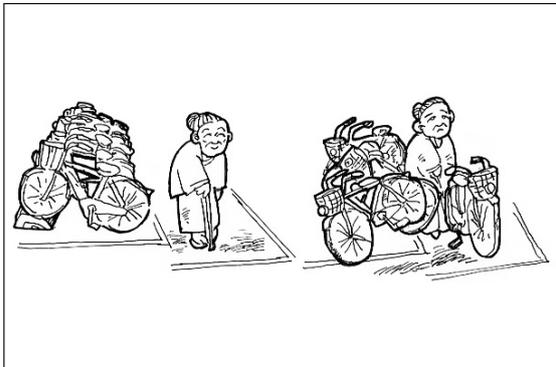
- 予想を立てる
 - ・調査活動前に、上流と下流の違いについての予想を書かせておくことで、現実の姿との「ずれ」に気づきやすくする。
- ノートやカードの利用
 - ・気づきや発見、疑問に思ったことをその場ですぐに記録できるノートやカードを用意する。
- ICTの活用
 - ・必要に応じてカメラやビデオカメラなどのICTを活用する。
- 教科等関連
 - ・理科における、自然環境を保全することの重要性を認識することとの関連。

事例② 資料を比較して課題を設定する

資料を提示するときにも、二つの資料を提示し比較することで生徒から疑問が生まれやすくなります。生徒は資料の違いからその原因を類推するなどして課題を明らかにしていきます。

【実践例 対比する二つの写真資料の提示】

例	A	B
例1	河川の上流	例1 河川の下流
例2	普通の公園	例2 バリアフリーの公園
例3	1丁目の自転車置き場	例3 2丁目の放置自転車



【ポイント】

○対比する資料の準備

- ・対比する資料は、視覚的にとらえやすい写真や映像資料を活用する。
- ・提示する資料は、書籍や新聞、インターネットなどから選ぶことも考えられるが、実際の地域の様子を記録し、提示することが大切である。

○提示の工夫

- ・プロジェクターなどデジタル機器を活用すれば、資料を大きく提示でき、細部にわたって確認できる。そこでは、他者と協同的に話し合いを進めることができ、問題点の共有化にもつながる。

○教科等関連

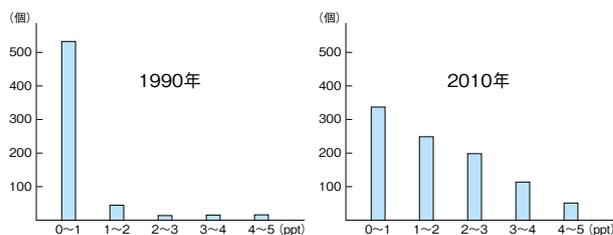
- ・社会科における、多面的多角的に考察する力との関連。

事例③ グラフの推移を予測して課題を設定する

グラフなどの統計資料の推移に着目することで、生徒は調査対象の今後を予測したり、問題点を見出したりすることができます。生徒は、統計資料の読み取りを根拠に課題を明らかにします。

【実践例 二つのヒストグラムの提示】

例 新旧の貝の環境ホルモン含有率



- 二つの資料の特徴をグラフから読み取る。
「グラフからいえることは何か」
「全体的にどのような傾向があるか」
「それぞれの特徴はどこにあるか」
- 各自で課題をもつ
「全体に含有率が高まってきている」
「含有率の高い割合が増えている。」
「環境ホルモン含有率が高まっている原因は何か？」

【ポイント】

○統計資料の準備

- ・生徒の予想と実際のデータとの間に「ずれ」や「隔たり」が生じるような統計資料を用意する。

○ワークシートの準備

- ・グラフから分かることや疑問点、今後の対策について、自分の考えを書く。

○教科等関連

- ①表題、単位、数量を読み取る
 - ②傾向を読み取る
 - ③類推したり推論したりする
 - ④自分なりに説明する など
- 数学科における、資料の活用との関連。

事例④ 対象へのあこがれから課題を設定する

職場で生き生きと働く人との出会いは、生徒に「自分も深くかかわりたい」「その人に近づきたい」という対象へのあこがれを抱かせます。対象のよさや価値を実感することで課題意識を高めます。

【実践例 職場体験活動に向けて】

- 1 職業や仕事について関心を明らかにする。
- 2 身近で働く卒業生のお話を聞く。



- 3 働くことの苦労や喜びを聞く。
- 4 感想や考えたことを整理し、課題を明らかにする。

【ポイント】

○探究的な学習にする

- ・特別活動の勤労生産・奉仕的行事としての職場体験を、総合的な学習の時間に位置付ける場合は、探究的な学習となるように、単元計画を適切なものに見直すことが欠かせない。

○教科等関連

- ・特別活動との関連を意識し、職場体験活動を総合的な学習の時間に位置付ける場合には、例えば生徒が身近で働く人に関心をもち、課題意識をもって働くことなどを探究していくこととなるような出会いの場面を設定することなどが考えられる。

事例⑤ KJ法的な手法で課題を設定する

カードを活用したKJ法的な手法を用いることで、体験活動などを通して生まれた気づきや疑問を、類型化して課題を見いだすことができます。

【実践例 カードを基にした話合いから課題づくり】

- 1 体験活動後に調べたこと、疑問に感じたことを付せん（カード）に書く。
- 2 付せん（カード）を類型化する。
- 3 類型化した付せん（カード）にタイトルをつけたり、キーワードを見付けたりする。
- 4 タイトルやキーワードをもとに、話合いを通して課題を明らかにしていく。

【ポイント】

○付せんやカードの使い方

- ・付せん（カード）一枚に対して一つの気づきや疑問を書くようにする。

○個別の疑問を集団の課題へ

- ・個別の疑問を集団の疑問にしながらグループや学級の課題として高めていく。

○教科等関連

- ・国語科における、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること、交流を通して材料を集め整理することなどとの関連。

事例⑥ 問題を序列化して課題を設定する

体験を通して明らかになった問題を序列化して整理することで、問題が焦点化され、追究したい課題を見いだすことができます。

【実践例 序列化を取り入れた課題の設定】

- 1 カードやフリップに課題の候補を取り出す。
- 2 序列化するための視点を考える。
- 3 視点をを使って話し合い、課題を序列化する。

**【ポイント】**

- 課題の候補の取り出し
 - ・キーワード化して取り出す。
- 序列化するための視点の例
 - ・実現可能かどうか
 - ・社会的な価値があるか
 - ・テーマとの整合性はとれているかなど
- 話し合いを可視化して整理
 - ・序列化する際には、話し合いの様子が可視化できるようにカードや板書などを工夫する。
- 教科等関連
 - ・国語科における、話題の方向をとらえて的確に話すこと、互いの考えを生かし合うことなどとの関連。

事例⑦ ウェビングでイメージを広げて課題を設定する

ウェビングを活用しイメージを広げることで、テーマを多面的にとらえたり、細分化して具体的にとらえたりしながら課題を見出していくことができます。

【実践例 テーマからウェビング】

- 1 中心テーマを決める。
- 2 ウェビングで自分の中のイメージを広げる。



- 3 完成したウェビング図を分析する。
 - (例) ・同じ内容を線で囲む
 - ・関連のあるキーワードを線をつなぐ
 - ・最も重要だと思うところに印を付ける
- 4 友達の考えと比較しながらグループや学級の課題を明らかにしていく。

【ポイント】

- 中心テーマの設定例
 - ・各校で定める学年テーマ
 - ・地域の特色など単元の題材となる事柄
 - ・課題づくりのきっかけとなる体験など
- ウェビング図の分析
 - ・明らかになった問題から課題を設定する
 - ・細分化した問題から課題を見いだすなど
- ウェビング図を基にした話し合い
 - ・他者の考えと比較する中で、問題の共有化がなされ、課題意識の向上が期待される。
- 教科等関連
 - ・社会科における、多面的・多角的に考察する力との関連。

2. 情報の収集

課題意識や設定した課題を基に、生徒は、観察、実験、見学、調査、探索、追体験などを行う。探究活動の過程においては、生徒が自覚的に情報を収集する学習活動が展開されることが望ましい。

そこで、情報の収集においては、次の点に配慮することが大切である。

- 体験を通じた感覚的な情報の収集や数値化された客観的な情報の収集を行うこと
- 課題解決のための情報収集活動を自覚的に行うこと
- その後の探究活動を深めるために、収集した情報を適切な方法で蓄積すること
- より多くの情報、より確かな情報の収集を行うために、各教科で身に付けた知識、技能を発揮すること

<具体的事例>

事例① アンケート調査で情報を収集する

アンケートは、多くの人の意見を集めて、その傾向を知りたいときに行います。聞きたいことを、端的にし、答えやすい簡単な質問を用意することで、多くの人のデータ収集が可能になります。また、質問の仕方や質問する相手によって、結果が異なってくるのでアンケートをとる前に、計画を立てることも大切です。

【実践例 アンケート調査用紙の作成】

〇〇市に訪れた方へのアンケート
私たちは今、「〇〇市の魅力」についての調査をしています…。

- ① 〇〇市には、観光でお越しですか？
はい いいえ
- ② 何回目の訪問ですか？
初めて ()回
- ③ 〇〇市の魅力は何ですか？
自然、温泉、食べ物、文化、
- ④ ③についてなぜそう思うのですか。

記述欄

ありがとうございました。
〇〇市立〇〇中学校1年1組



【ポイント】

- 調査用紙作成上の留意点
 - ・調査の目的や調査の対象を誰にするのかを明確にする。
 - ・短く、分かりやすい質問文にする。
 - ・短時間で回答できるよう質問項目を多くしない。
 - ・単純な質問から意見を問う質問へ移っていくようにする。
- 教科等関連
 - ・国語科における、必要に応じて質問しながら聞き取ることとの関連。

事例② フリップボードで情報を収集する

フリップボードを提示してインタビューする方法は、質問内容が伝わりやすいだけでなく、言葉と併用できるため、確実な情報収集にもつながります。また、短時間で回答が得られるので、相手に迷惑をかけずに済みます。

【実践例 フリップボードを提示してインタビュー】



・地域には、外国の人が
多いから、英語と韓国
語の説明も入れておこ
う。

・集計表も入れておこう。



温室効果ガス25%削
減に向けて、ご自身も
生活を改善しようと思
いますか？
YES or NO
具体的にはどのよう
なことですか？

【ポイント】

- フリップボードの提示
 - ・聞きたいことを端的に表し、答えやすい質問を用意する。
- フリップボードの工夫
 - ・集計表をフリップボードと一体化しておくなど、集計の方法についても確認しておく。
- 教科等関連
 - ・国語科における、社会生活の中から材料を集め整理することなどとの関連。

事例③ インタビュー前にチェックリストで確認して情報を収集する

インタビューのポイントをおさえ、インタビュー活動の準備を計画的に行うことで、専門的な立場の人の知識や経験、努力や工夫など、必要な情報を相手から直接得ることができます。

【実践例 インタビュー前のチェックリスト】

チェック項目	チェック欄
①質問する目的が説明できる	
②質問する内容が整理してある	
③質問者、記録者などの役割を決めてある	
④記録用紙、カメラ等の取材道具の準備ができている	
⑤訪問先に予約をとってある	
⑥訪問する相手の名前が言える	
⑦訪問する相手に質問する内容を伝えてある	
⑧訪問先の行き方や費用を確認してある	

〈インタビューの手順〉

インタビューへのお礼を言う→自己紹介をする→インタビューの目的を説明する→インタビューを始める→インタビュー後のお礼を言う

【ポイント】

- インタビューの目的
 - ・何を知るためにインタビューするのか生徒自ら説明できるようにしておく。
- 内容の再検討
 - ・訪問前にインタビューメモを作成し、内容を吟味しておく。
- 事前の調整
 - ・生徒が連絡する前に、訪問先に趣旨を伝え、事前に連絡調整を行うようにする。
- 教科等関連
 - ・国語科における、社会生活の中から材料を集め整理することなどとの関連。

事例⑥ ファクシミリで情報を収集する

ファクシミリを使用すると、多くの質問項目や図表を添えたものにも意見をもらうことができます。また、手紙よりも時間をかけずに必要な情報収集ができます。

【実践例 FAX用紙への書き方】

- 1 日付
 - 2 相手の名前
 - 3 自分の学校、学年、名前
 - 4 学校の住所、FAX番号
 - 5 タイトル
 - 6 あいさつ、FAXの目的
 - 7 回答の期日
- (質問紙を添付)

○年○月○日

□□□□御中
(枚中 枚)

○○中学校 ○年 名前
学校の住所
電話番号・ファクシミリ番号

○○区のバリアフリーの質問
についてご連絡します。

さきほどお電話した○○です。電話でもお話しましたが、○○区のバリアフリーについて調べています。2枚目に質問を書きましたので教えてください。

お忙しいと思いますが、○月○日までにご回答ください。よろしくお願いたします。

【ポイント】

- 事前の準備や相手への配慮
 - ・送る直前に電話してファクシミリを送ることを伝える。
 - ・送り間違いのないようにファクシミリ番号を確かめる。
 - ・濃い鉛筆やボールペンで書くようにする。
 - ・図表などを添付し、相手に質問の意図が分かりやすく伝わるようにする。
- など

事例⑦ 手紙で情報を収集する

手紙を活用した情報収集を行うことで、生徒は直接会うことが難しい専門機関や専門的な立場の人から必要な情報を得ることができます。手紙は、時間はかかりますが、ファクシミリや電話に比べ丁寧な情報収集の手段です。

【実践例 手紙の書き方】

- 1 相手の名前
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 手紙を書いた理由を伝える
 - どのようなテーマで学習しているのか。
 - 現時点で自分たちのわかっていること、考えなど。
- 5 質問は分かりやすく箇条書きにし、具体的に書く
- 6 日付
- 7 自分の名前

○○市環境保全課
課長 □□ 様

はじめてお手紙さしあげます。私は○○中学校2年生の△△△△と申します。私たちのグループでは、空き缶のリサイクルについて学習をしています。市で回収している空き缶をどのようにリサイクルしているかについてお聞きしたく手紙を書きました。

お忙しいところすみませんが、次のことについて教えてください。

1. リサイクルされた空き缶について
2. 空き缶のリサイクルに使われる市の予算
3. 今後の対策について

どうぞよろしくお願いいたします。

年 月 日
△△△△

【ポイント】

- 手紙を送る際の留意点
 - ・字は読み手を意識し、丁寧に読みやすく書く。
 - ・返事をいただく場合はこちらの宛て先を書いた返信用封筒やはがきを同封する。
 - ・礼儀の面でも失礼のないように十分に配慮する。(挨拶・お礼等)
 - ・所在確認が可能であれば、事前に教師が電話等で確認して送付するとよい。

事例⑩ 実験・観察を通して必要な情報を収集する

生徒は、科学的な方法による実験・観察を通して、客観的なデータを手に入れ、自分の考えを確かにするだけでなく、自分の考えを説得力のある提案へと高めていくことができます。

【実践例 パックテストによる調査】

地域の河川の水質調査において水の汚れを示すCOD（化学的酸素要求量）の値をパックテストで測定する。科学的に測定することで、汚れの程度を客観的に知ることができる。



地点	COD値 (mg毎リットル)	気付いたこと
A	0.5～1.0	きれいな流れ
B	0.5～1.0	魚がたくさん
C	0.5～1.0	周辺にゴミが…
D※	1.0～5.0	においがきつい

※家庭排水が流れ込む地点

0.5～1.0 mg毎リットルを示した水は問題ない。でも地点Dは、1.0～5.0 mg毎リットルを示している水はかなり汚染されていることが分かった。



近くで流れ込む生活排水が原因だと思うわ。

【ポイント】

- 測定目的
 - ・何のために測定するのかを明らかにしておく。
- 測定方法の工夫
 - ・自分の手で実際にできる測定方法を考える。
- 分析・考察のための収集
 - ・現象を原因と結果の関係でみるため表などにまとめ、データに基づいて考察する。
- データの信憑性を高める
 - ・測定は、何度も行い平均値を求めることも大切である。
- 教科等関連
 - ・理科の実験方法との関連。

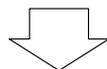
事例⑪ ファイルに情報を集積する

活動の記録や収集した資料にインデックスやタイトルをつけて整理することで、情報が内容ごとに整理されるだけでなく、情報を再確認したいときや、自己の歩みを振り返りたいときなどに簡単に取り出すことができます。

【実践例 ポートフォリオの作成】



- 1 集めた情報を時系列でファイリングしていく。日付や通し番号を付けておくとうい。小さいサイズのものには台紙に貼り付けてファイリングすると散逸しにくい。



- 2 時系列でファイリングしていた情報を、分野ごとに整理するなどして再構成を行う。その際「タイトル」や「小見出し」などを付ける活動は内容を見直すことや振り返ることにもつながる。

【ポイント】

- ポートフォリオ
 - ・書く活動を重視し、様々な体験活動の記録を文章として蓄積していく。
- 時系列の並びから内容の並びへ
 - ・集めた情報は、はじめは時系列に並んでいる。これを同じ内容でまとめることは、情報の整理・再構成することにつながる。

事例⑫ 集めた情報をコンピュータフォルダに蓄積する

調査したことをコンピュータのフォルダに蓄積していくことで、体験活動等で集めた多様で膨大な情報を整理して保存することができます。蓄積した情報の取り出しが容易になるだけでなく、コンピュータ内のソフトを活用してグラフや表に加工することも容易になります。

【実践例 フォルダで整理】

- 1 コンピュータに調査内容に応じてフォルダをつくる。
フォルダ1 「川の水質調査のデータ」→（上流、中流、下流）
フォルダ2 「インタビュー結果」→（専門家、地域、保護者）
フォルダ3 「インターネット情報」→（川に関すること、生き物に関すること、行政の取組、他地域の情報）
フォルダ4 「アンケートの結果」→（項目別、調査日別、地域別、年代別、その他記述の内容別）
フォルダ5 「現地取材の画像・映像」→（調査日別、種別、エリア別、対象別）
- 2 集めた情報をフォルダに整理して保存する。



- 3 作成したフォルダを共有し合えるようにする。

【ポイント】

○ ICT の活用

- ・ICT を積極的に活用できるように指導する。
（ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、表計算ソフトによるグラフ作成、画像の編集など）

○情報の共有化

- ・フォルダを作成し、資料を内容ごとに整理し、データを共有できるようにする。